

# 接続期における教育・保育の実践事例

## 幼児教育施設

5歳児後半のカリキュラム作成の視点(1)

協同性が発揮できる遊びを充実する

「みんなで楽しく遊べる宇宙迷路を目指して」 5歳児 11月

幼1

5歳児後半のカリキュラム作成の視点(2)

身近な自然や地域社会に触れることのできる保育環境を工夫する

「みんなでつくったスケートリンク」 5歳児 2月

幼2

5歳児後半のカリキュラム作成の視点(3)

小学校入学に向けて自立心や自信を高める体験を積み重ねる

「幼稚園と小学校との継続的・計画的な交流」 5歳児 通年

幼3

## 小学校

小学校1年生1学期のカリキュラム作成の視点(1)

幼児期の育ちを踏まえた指導の在り方を工夫する

「すなやつちとなかよし」 図画工作科 5月上旬

小1

小学校1年生1学期のカリキュラム作成の視点(2)

生活科を中心に合科的・関連的な指導を工夫する

「がっこうだいすき」

生活科を中心とした合科的・関連的な指導 4月中旬～5月下旬

小2

小学校1年生1学期のカリキュラム作成の視点(4)

全校で協力体制をつくり取り組む

「1年生を中心に据えた”学校スタートカリキュラム”」 3月～4月

小3

## <実践事例1>

### 5歳児後半のカリキュラム作成の視点(1) 協同性が発揮できる遊びを充実する

#### 「みんなで楽しく遊べる宇宙迷路を目指して」

5歳児 11月

##### 【この指導のポイント】

◎子どもたちが話し合い、共通の目的に向かって試行錯誤しながら進める遊びの充実

① 子どもの思いや発想を大事にし、結論を急がない支援を工夫する。( \_\_\_ 下線部)

② 子ども同士が関わり合って活動する場が生まれるように、保育環境を工夫する。( \_\_\_ 下線部)

「さあ、作るぞ〜！」と、ソフト積み木や段ボールなど、子どもたちは使えそうな物をホールに運べるだけ運び、迷路作りが始まった。アイデア豊富なA男に、「これはどこに置く?」「これを入口にしようか」などと確認しながら、持ってきた物を繋ぎ、道を作り始めた。分かれ道の作り方に悩んでいる子どもたちを見て、担任はそっと、既成のトンネルを置いてみた。するとB子がそれを見つけ、早速使い始めた。しかし、トンネルはナイロン製のため、簡単に動いてしまう。「あ、いいこと考えた!ちょっと待って」とB子。すぐに水の入った大きなペットボトルを持ってきて、おもりの代わりに置いている。が、「やっぱりずれちゃう…」としょんぼり。



保育者はそんなB子の様子をしばらく見守ったあと、わざとC子に聞こえるように、「何か、いいものないかなあ。」とつぶやいてみた。すると、傍にいたC子が「これはどう?」とガムテープを持って来た。トンネルと床をガムテープで接着することで固定され、分かれ道が完成した。2人は顔を見合わせて、にっこり。今度は「ゴールはどこにする?」という声もでて、迷路係とゴール係とに分かれ、宇宙迷路作りが続いた。

途中まで完成すると子どもたちはすぐに遊び始め、自分たちで作った喜びを味わっていた。やがてB子が「年中さんも誘ったらどう?」と嬉しそうに提案し、全員が承諾した。年中組も呼んできて、一緒に、夢中になって繰り返し遊んだ。担任は、明日もすぐに迷路作りの続きが始まることを予想し、宇宙迷路はそのままホールに残すことにした。

ところが翌日、ホールにある迷路を見つけた年少児が中に入って遊び始めたところ、迷路が壊れてしまった。「誰がやったの?」「ひどいよね!」「せっかくみんなで作ったのに、嫌な気持ちになるよね!」と興奮気味の年長児。担任は、悔しい思いを口々に年少担任に伝えている子どもたちの様子をしばらく見守ったあと、「きっとみんなの作った迷路がおもしろそうだったから、遊んでみたくなっただんじゃないかな?」と優しく語り掛けた。すると、「そうか、遊びたかったのか」と、子どもたちはやっとな得した様子だった。その後さらに、「年少さんももっと遊びたいかもしれないね」と子どもたちに伝えたところ、「入口の所にスタートって書いておけば、分かりやすいんじゃない?」「積み木や段ボールが動かないように、ガムテープでしっかり貼ればもっと丈夫になるね」と、小さい子たちも楽しめる『丈夫で強い迷路』を作ろうという、新しい目標が生まれた。そして、宇宙迷路に異学年の子どもたちを招待してあげよう、思いがふくらんでいった。

翌朝、身支度を済ませた子どもから、すぐに必要な物をホールに運びはじめ、迷路作りが再開。「ここと入口を繋げるようにしたいんだけどなあ」とA男。それを聞いてすかさず積み木を持ってくるD男。また、E男が「行き止まりを作ろう」「何を使ったらいいかな」と迷っていると、F男が「この積み木どう?」とここにこして運んで来た。「それはこっちで使うんだから持って行かないで」とG子が止める場面も。担任は子ども同士が揉める場面もそっと見守っていると、同じ目的をもった子どもたちは自然と仲間になり、互いのやっていることを受け止め、交流しながら活動を進める姿があちこちで見られた。

完成目前、「どこをゴールにする?」「こっちな?」「ゴールを二つにしたら?」「ゴールは一つの方がいいよ」「うーん、どうしようか」とゴール係の意見がなかなかまとまらない。沈黙が続く、立ちつくす子どもたち。そこで担任が「みんなにも聞いてみようか」と提案したところ、クラス全員が集合。あれこれ意見を出し合い、みんなが納得して決まった。

そしてついに、宇宙迷路が完成。星や宇宙船などもホールのあちこちに飾られた。『丈夫で強い迷路』の完成に、みんなの笑顔があふれていた。



仲間と一緒にやることで、一人ではできない遊びがより充実します。繰り返し話し合いながら、互いの学びになっていきます。

## <実践事例2>

### 5歳児後半のカリキュラム作成の視点(2) 身近な自然や地域社会に触れることのできる 保育環境を工夫する

#### 「みんなで作ったスケートリンク」 5歳児 2月

##### 【この指導のポイント】

- ◎自然の事象への興味や関心を生かし、子どもたちの好奇心や探究心を働かせるための工夫
- ① 子どもたちの興味や関心を受け止め、つぶやきを拾いながら、考えを引き出したり、伝え合う問い掛けをしたりして、活動を発展させる。(\_\_\_\_\_下線部)
  - ② これまでの氷作りの遊びの経験から今後の展開を予想し、子どもの発見や発想を生かしながら必要な教材を整え、保育環境を工夫する。(\_\_\_\_\_下線部)

ある日、霜が溶けてぐちゃぐちゃになった園庭に、スケーターのタイヤ痕の溝が、いくつも長くできていた。保育者は「この溝に氷ができていたら、子どもたちはどんな気付きをするだろう?」と考え、その溝に大量の水を撒いて帰宅した。

翌日、氷が張った溝を発見すると、「何これ?面白いね」「氷の道だ」と子どもたちの感動の音が飛び交った。そんな中、「パパとスケートに行行って楽しかったよ」「スケートしたくなっちゃったな」「ねえ、スケートリンク作ろうよ」というN子の言葉に子どもたちの目が輝いた。N子が、スケートリンクの絵をホワイトボードに描くと、「大きな穴を掘るしかないね」「でも、穴に水を入れても土が全部飲んじゃうから氷ができないよ」など、いろいろな考えが出てくる。「そうだ!プール使うの、どう?」「いいね!」と盛り上がり、これまで連日遊び込んだ氷作りの経験を生かし、一番氷ができやすかった「日陰で、よく風が当たり霜がたくさんできる土の上」にプールを置き、それに水を入れることを子どもたちと話し合っ

て決めた。2日目、「すごい!スケート場ができてる!」その声に子どもたちが次々に集まってきた。しかし、感動もつかの間、1人の年中児が氷の上に手を置いた瞬間割れてしまった。「あっ!」子どもたちは動かない。「みんなで滑れると思ったのに〜」と泣き出すM子。保育者はその様子をしばらく見守っていたが、「どうして簡単に割れちゃったんだろう?」と子どもたちに投げ掛けた。すると、「寒さが足りなかったのかなあ?」「力の入れすぎだよ」「水が多すぎたんじゃない?」と口々に言い出した。「そうかあ、じゃあどうする?」と尋ねると、「割れない氷を作りたい」「もっと水を少なくしてみようよ」となり、バケツやひしゃくを持ってきてプールの水を減らし、子どもたちはスケートリンク作りに再チャレンジ!

3日目。予想通りに厚めの氷ができ、T男が試しに片足を乗せてみた。氷は割れなかったが、水がしみ出てきて滑ることはできない。「どうしよう…」と保育者がつぶやくと「そうだ、一回氷を取り出して水を捨てよう!」となった。そこで15人全員で声を掛け合い呼吸を合わせながら氷を持ち上げたのだが、「ガッシャー」と途中で割れてしまった。どうしようもない悔しさがこみあげる中、「入れ物の底が厚いと氷ができにくいっておじいちゃんが言っていたよ」とY男。そこで、底の薄いビニールプールに替えてみようとなった。ところが今度は、止水詮がない。「何かいいものないかなあ?」の問い掛けに、「石」「葉っぱ」「ペットボトルの蓋」「ガムテープ」などの意見が出たが、一番丈夫だろうということで、プールの底を雑巾で拭いてからガムテープで穴をふさぐことに決まった。

4日目。スケートリンクに氷が張ったので今度こそスケートができると思ったが、少し力を加えると、やはり氷は割れてしまった。しかし、「割れていたって滑れるよ。やってみよう!」というH男の言葉を聞き、子どもたちは割れた氷の上でスケートに挑戦。つるつる滑ったり、トリプルアクセルに挑んだりして、代わる代わる楽しんだ。保育者がBGMを流したところ、今度はスケート場ごっこが始まり、チケット作りに取り掛かる子も出てきた。子どもたちは大満足だった。



自然との関わりの中で  
興味や関心をもちながら  
試行錯誤を繰り返し、子ども  
たちは育っていきます。

<実践事例3>

5歳児後半のカリキュラム作成の視点(3) 小学校入学に向けて自立心や自信を高める体験を

積み重ねる

「幼稚園と小学校との継続的・計画的な交流」

5歳児 通年

【この事例のポイント】

◎年間を通して計画的に子どもや教員の交流を進めることで、小学校との連携を深める。

- ① 幼稚園と小学校の教員が、互いの教育・保育を見たり、実際に参加したりする機会を定期的に設定することで、幼児教育と小学校教育との共通点や相違点について理解を進める。
- ② 年長児と小学校教員との交流の経験を積み重ね、年長児が小学校生活への期待や安心感を高めることができるようにする。

Y幼稚園では近隣の小学校との協力体制を作り、幼小連携行事について、次のような年間計画を作成し、実施している。計画作成に当たっては、定期的に幼小連絡会を開催し、各行事のねらいを明確にすることで、それぞれにとって互恵性のある活動となるように工夫している。

  保育者と教師との連携
   子ども同士の連携

月	幼稚園側	連携行事	小学校側
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園年長担任が1年生の授業の様子を参観する。</li> <li>○卒園児の様子から、接続期の教育活動のあり方について協議する。</li> </ul>	幼小連絡会① 年間計画の確認	<b>【小学校1年生 生活科】</b> <ねらい> ・年長組とペアになり、年上として温かく接し、仲良く活動しようという意欲をもつ。 ・七夕の由来を知り、紙芝居にまとめたり、飾りを作ったりして、昔からある行事を楽しむ。
5	<b>【幼稚園年長児】</b> <ねらい> ・1年生との交流を楽しむ。 ・手伝ってくれた1年生にありがとうの気持ちを伝えることができる。	幼小連絡会② (職員研修交流) 授業参観	
6	<b>【幼稚園年長児】</b> <ねらい> ・友達や4年生と一緒に競技を行うことを楽しむ。 ・自分に自信をもって行動する。	七夕交流会	
7		なかよし運動会	<b>【小学校4年生 総合的な学習「福祉」】</b> <ねらい> ・年下の人たちと共によりよく生活していくために、自分たちにできることを考え、実践する。
8	<b>【幼稚園年長児】</b> <ねらい> ・友達や教師と山登りをして、達成感や満足感を味わう。 ・1年生と一緒に活動し、小学生や学校の活動を知る。	秋の探検隊 秋の山に登ろう!	○小学校教員が保育を参観をする。 ○幼児教育で大事にしたいことについて、意見交換をする。
9		幼小連絡会③ (職員研修交流) 保育参観	
10	○それぞれに、授業や保育のゲストティーチャーとして参加する。 ○接続期の教育活動のあり方について、協議する。	秋の探検隊 秋の山に登ろう!	<b>【小学校1年生 生活科「あきがいっぱい」】</b> <ねらい> ・秋の草花や樹木、虫などに関心をもち、観察する。 ・ペアへのプレゼントづくりに使うために、木の実や草花などを集める。
11		幼小連絡会④ (職員研修交流) 授業体験	
12	<b>【幼稚園全学年】</b> <ねらい> ・体を動かすことを楽しむ。 ・自分なりのめあてを持って、取り組む。 ・友達の姿を見て、応援する。	持久走記録会	<b>【小学校全学年】</b> <ねらい> ・めあてをもって、進んで体力づくりをする。 ・友達と協力して練習し、互いの努力を認め合う。
1	○小学校教員が年長児クラスで出前授業を行う。 ○年長児の様子について情報交換をする。	幼小連絡会⑤ (職員研修交流) 保育体験	
2	<b>【幼稚園全学年】</b> <ねらい> ・集会を楽しみにし、自信をもって発表する。 ・小学生の発表の様子を見てあこがれの気持ちをもつ。 ・感じたことや気付いたことを友達と伝え合う。	青空集会	<b>【小学校全学年】</b> <ねらい> ・友達の発表をじっくり味わい、よさに気付くとともに、得たものを自分の生活や学習に生かそうとする。 ・一人一人が伝え合う力を活かして、発表することで表現活動への自信と意欲をもつ。
3	<b>【幼稚園年長児】</b> <ねらい> ・1年生に親しみの気持ちをもつ。 ・1年生の姿を見て就学への期待を高める。	幼小連絡会⑥ (職員研修交流) 園児の授業体験1	
		校内教育支援委員会	○年長児を小学校に招き、1年生の教室で1年担任が授業を行う。 ○来年度の接続カリキュラムについて、協議する。
		1年生の読み聞かせ	
		幼小連絡会⑦ (職員研修交流) 園児の授業体験2	
		幼保小連絡会	<b>【小学校1年生 生活科「大きくなったね」】</b> <ねらい> ・年長児に分かるように、大きな声でゆっくりと、自信をもって絵本を読む。 ・1年間の学習の成果を発表し、自分の成長を振り返る。

## <実践事例4>

### 小学校1年生1学期のカリキュラム作成の視点(1) 幼児期の育ちを踏まえた 指導のあり方を工夫する 「すなやつちとなかよし」 図画工作科 5月上旬

#### 【この指導のポイント】

◎幼児期に体験した遊びを生かし、造形的な表現をする楽しさを育む指導の工夫

- ① 子どもにとって経験があり親しみのある材料をもとに単元を計画する。
- ② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿—豊かな感性と表現—」との関連を考慮するとともに図画工作科で育成する資質・能力（発想や構想の能力、創造的な技能）を押さえる。

砂や土に触れたり遊んだりする活動は幼稚園や保育所、認定こども園で重視されており、その中で、子どもたちは素材の特徴にあわせて表現する過程を楽しみ、表現する喜びを味わってきている。これらの経験をもとに、本活動では、どんなことができそうかイメージを膨らめ、掘ったり積んだり並べたりしながら様々に試行錯誤し、体全体で造形活動に取り組む子どもたちの姿が見られた。

教師は、表現を楽しむ子どもの姿を認めるとともに、単元の目標に迫るために、子どもの活動を丁寧に見取り、子どもが自分の表現のよさに気付いたり、さらに表現を工夫したりするよう支援した。振り返り（鑑賞）の場面では、自分たちの工夫を発表したり、友達の作ったもののよさを伝え合ったりしたことが、見方や感じ方を広げることにつながった。

単元名	すなやつちとなかよし	
単元の目標	○砂や土に働き掛け、感触を楽しみながら、造形的な活動を思いつき楽しむことができる。	
単元の展開（全2時間）		
	主な学習活動	指導上の留意点
1	<p><b>自分が選んだ道具を持って砂場に移動する。</b>                      児童：ペットボトル、プリンやヨーグルトなどのパック                      教師：プラスチックの容器、スcoop、じょうろ、ホース</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、園の砂場で遊んだ体験を思い起こし、楽しかったことを話し合う。また、「これ、使えるかも」という視点で持ち物を用意するよう子どもに伝えるとともに、保護者にも連絡をしておく。</li> <li>・園の先生に、園ではどんなものを使ったかを尋ね、参考とする。また、さらに活動の広がりや深まりが期待できる道具や材料を準備する。</li> <li>・活動に没頭できるように、体操服に着替えておく。日差しが強いので、赤白帽子、水筒を用意させる。</li> <li>・水で固めたい、水を流してみたいという願いに応えることができるよう、ホースを砂場の近くまで引っ張っておく。</li> <li>・グループで作り始めた子には、協力してお互いの意見を尊重できるよう励ましの声掛けをする。</li> <li>・製作しているものや活動の姿を認め励ますとともに、「ここどうなっているのかな」と尋ねたり、「先生も一緒に作りたくなっちゃった」と寄り添ったり、「もっと面白くできるかな」と声を掛けたりして、子どもが自分の表現のよさに気付いたり、表現をさらに工夫したりするよう支援する。</li> <li>・友達の作ったものの面白さや表し方などについて関心をもてるよう振り返りをする。</li> <li>・取組みの過程、作品全体のイメージや形の部分について価値付ける。</li> </ul>
2	<p><b>気をつけたいことを子どもと一緒に話し合う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と譲り合って仲よく作る。</li> <li>・休憩時間には、水分を取って日陰で休む。</li> <li>・砂や土を投げたりかけたりしない。</li> </ul>	
3	<p><b>本時のめあてを確認する。</b>                      「砂場でどんなことができるかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山や川をつくりたい。トンネルも掘りたい。</li> <li>・いろんな形をつくってみたい。</li> </ul>	
4	<p><b>掘ったり並べたり積んだりして、思いついたことを試しながらつくる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の時の経験を生かして、カップやスcoopで作り始める。</li> <li>・隣の子が作った山に道をつなげて楽しむ。</li> <li>・声を掛けたり、互いの道具を交換したり、水を運ぶ役を決めたりしてつくる。</li> <li>・試したことや作った形など、情報交換しながら、土や砂の感じやイメージを捉える。</li> </ul>	
5	<p><b>思い思いにつくったものを紹介し、ぜひ見てほしいところをアピールする。</b></p>	
6	<p><b>片付けをする。</b></p>	



<実践事例5>

小学校1年生1学期のカリキュラム作成の視点(2) 生活科を中心に合科的・関連的な指導を工夫する

「がっこうだいすき」 生活科を中心とした合科的・関連的な指導

4月中旬～5月下旬

【この指導のポイント】

◎幼児期における遊びを通しての学びを踏まえた、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫

- ① 見つけたことや驚いたこと、さらにやってみたいことなどを取り上げて学習の展開を図るとともに、様々な人との関わりを設定する。
- ② 具体的な活動を通して学校の公共性に目が向くよう指導する。

入学して間もない子どもにとっては、学校には秘密がたくさんあり、わくわくする気持ちにあふれている。その思いを全体で共有して意欲を高め、みんなで探検をスタートしている。さらに個人やペアで探検を重ねている。教師は、子どもの意識の流れに配慮し、探検を通じた総合的な学びがより充実するように、合科的・関連的な指導を進めるとともに、活動の内容や場所、人との関わりを広げている。その結果、子どもたちは、幼児期の「遊び」で培った学びを生かし、主体的に活動に取り組むことができた。

さらに、具体的な活動や体験の中で、学校には様々な施設があり、多くの人に支えられていることや、みんなが楽しく安心して生活するためのきまりがあることに気付くように指導した。

単元名	がっこうだいすき	
単元の目標	○校庭や校舎の施設、先生方や友達に関心をもち、楽しく関わりながら学校生活にわくわくした気持ちをもつことができるようにする。 【関心・意欲・態度】 ○楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、学校生活の楽しさを身近な人に伝えることができるようにする。 【思考・表現】 ○学校には、みんなが遊んだり学習したりするための施設やきまりなどがあることや、学校生活はたくさんの人々に支えられていることに気付くようにする。 【気付き】	
単元の展開(全18時間:生活科12 音楽科2 図画工作科2 学級活動2)		
	主な学習活動	指導上の留意点
	<p><b>1 がっこうをたんけんしよう</b> ○学校のことで困ったことや心配なこと、知りたいことなどを話し合い、みんなで校舎内や校庭を見て歩く。(生2)</p> <p><b>2 がっこうのひみつをみつけよう</b> ○友達と校舎内を繰り返し探検して、驚いたことやもっと知りたいことを見つける。(個人・ペア・グループ)(生2)</p> <p>○校庭で草花や虫を見付けながら、探検する。(生1) ○気付いたことや分からないことを伝え合う。(生1) ○2年生に案内してもらったり教えてもらったりする。(生2)</p> <p><b>3 あくしゅだいさくせん</b> ○学校にいる人と仲よくなる。(生1・昼休み)</p> <p><b>4 ひみつやじまんをおしえよう</b> ○分かったことや見付けたこと、仲よくなった人などのことを絵や言葉に表し、友達に伝える。(生3)</p> <p><b>5 みんなでもっとなかよしくなる</b> ○手遊び歌やジェンカで遊んでなかよしくなる。校歌を覚えてみんなで歌う。 &lt;音楽室&gt;(音2) ○砂場で遊ぶ。 &lt;砂場&gt;(図2) ○練習をしてきたドッジボールラリーの集会をする。 &lt;体育館&gt;(学活1) ○図書室の使い方を教えてもらう。 &lt;図書室&gt;(学活1)</p>	<p>・事前に1年生が校内を歩いて回ることを全教職員に伝えておき、1年生との関わり方について共通理解を図っておく。</p> <p>・もっと知りたいという意欲が高まるように、地図や写真などを活用して学習の足跡を工夫する。</p> <p>・特に配慮を要する子への支援について、2年生の担任と確認しておく。</p> <p>・人への接し方やマナーを学習し、初対面の人に対しても自分から関わるように支援する。</p> <p>・「1年生を迎える会」や縦割り活動で関わった上級生のことも「ひみつやじまん」として発表を促す。</p> <p>・絵や言葉だけでなく、身体表現など、様々な伝え合いの方法を奨励する。</p> <p>・校舎内、校庭などの施設を使って活動したいという思いを大いに認め、学校には、様々な施設があり、多くの人がいて、楽しく安心して生活できる場であることを実感させる。</p> <p>・事前に図書館サポーターと打合せを行い、今後の図書室の活用につなげる機会にする。</p>



## <実践事例 6 >

### 小学校 1 年生 1 学期のカリキュラム作成の視点(4) 全校で協力体制を

つくり取り組む

### 1 年生を中心に据えた「学校スタートカリキュラム」

3 月～4 月

#### 【この指導のポイント】

◎全教職員・全児童で 1 年生と関わるための工夫

- ① 前年度のうちから教務主任を中心に教育課程に位置づけることで、各人が見通しをもって取り組みやすくする。
- ② 行事を機会に、1 年生と他学年との協力体制を構築する。

K 小学校では、前年度中に新 1 年担任を発表し、スタートカリキュラムの進め方について 1 年担任と教務主任とで打ち合わせをしている。その際、入学後最初の 1 ヶ月間ほどは支援員を 1 年生に優先的に配置することや、朝の活動時間等に級外職員が 1 年生の教室にサポートに入り、支援をすることも確認する。その結果、1 年担任は 4 月の学級経営に見通しがもちやすくなり、ゆとりをもって指導に当たることができるようになる。こうしたことを 4 月当初職員会議で確認する。

平成 30 年度 1 年生を中心に据えた「学校スタートカリキュラム」

月	日	曜	全校	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	級外	●支援員・★ST	その他		
3	14	水									スマイルティ チャー★面接			
3	26	月	新任校挨拶	スタカリ打合せ	新任校挨拶日の午後、新旧教務主任と 1 年生担任がスタートカリキュラム作りの打ち合わせ見通しをもつ。					スタカリ打合せ			卒業生の教育学部大 学生が、月～水曜日 の児童登校から 9 時 30 分まで支援	
4	4	水	職員会議	職員会議でスタートカリキュラム提案・検討										6 年生には準備や参 加することを通し て、最高学年になっ た自覚をもつ機会と する。
5	5	木	入学式準備		2 年生にベアの 1 年生の名前の「手本」を書いてもらい、寄り添って教えてもらおう。2 年生にはひらがな書き方を見直す機会とする。					入学式準備				
6	6	金	入学式	入学式						入学式参加				
9	9	月	地区集会											
10	10	火	弁当の日		なまえを書く						●●			
11	11	水	給食開始	3 年生から校歌を教えてもらおう。3 年生には、校歌を確かめ、歌い方を見直す機会とする。						給食配膳支	●●	S 幼稚園参観		
12	12	木	避難訓練								●●	S こと園参観		
13	13	金			校歌を歌おう						●●			
16	16	月									●●			
17	17	火	授業参観							掃除しよう	●●	PTA 総会		
18	18	水								遊具を使おう	●●	K 学園幼稚園参観		
19	19	木	研修会	公開授業							●●	市教委主催研修会		
20	20	金									●●			
23	23	月									●●			
24	24	火		交通教室	わくわく入学式の各学年の歓迎の出し物は、1 年生への関わりの内容を基本として発表する。各学年の内容は固定化し、進級を自覚する。									
25	25	水									●●			
26	26	木	1 年生を迎える会	わくわく入学式（1 年生を迎える会）										
27	27	金								アサガオを蒔こう	●●			
5	1	火									★			
2	2	水		生活科：公園へ春見つけ							★			

さらに、K 小学校では、1 年生を迎える会を「わくわく入学式」と命名し、この日に向けて全学年がそれぞれに 1 年生と関わる活動を組んでいる。1 年担任と他学年担任とがそれぞれのねらいを確認し合いながら活動を構想することで、1 年生が主体的に取り組めるようにするとともに、上級生にとっても、1 年生との関わりにより自身の成長を実感したり、既習事項の振り返りとなったりするように工夫している。その結果、各学年の子どもそれぞれに確かな学びがあり、達成感を得ることができている。

「わくわく入学式」に向けての取組は学年便りや学校だよりによって、保護者にも知らせている。学校全体で 1 年生を見守り育てている様子を伝えることで、1 年生の保護者の安心感にもつながっている。

静岡県版幼小接続モデルカリキュラム 検討委員会

平成30年度

	所属等	職名	名前
1	静岡県立大学短期大学部	教授	永倉 みゆき
2	常葉大学教育学部	准教授	木村 光男
3	御殿場市立竈幼稚園	教諭	土屋 陽正
4	社会福祉法人都田会 都田保育園	園長	下原 直美
5	学校法人相愛学園 焼津幼稚園	園長	相田 早苗
6	下田市立下田認定こども園	主幹保育教諭	大戸 晶子
7	静岡市立蒲原西小学校	校長	山口 恭正
8	下田市立下田小学校	教諭	星屋 真澄
9	焼津市立大井川保育園	園長	鈴木 さなえ
10	静東教育事務所地域支援課	参事	宮崎 克久
11	静西教育事務所地域支援課	教育主査	道越 洋美
12	総合教育センター総合支援部小中学校支援課	課長	渡邊 衛
13	義務教育課 指導班	教育主査	瀬戸 武生

平成29年度

	所属等	職名	名前
1	静岡県立大学短期大学部	教授	永倉 みゆき
2	常葉大学教育学部	副教職支援センター長	木村 光男
3	御殿場市立竈幼稚園	教諭	土屋 陽正
4	社会福祉法人都田会 都田保育園	園長	下原 直美
5	学校法人静岡豊田学園 静岡豊田幼稚園	園長	宮下 友美恵
6	下田市立下田認定こども園	主幹保育教諭	大戸 晶子
7	静岡市立蒲原西小学校	校長	山口 恭正
8	下田市立下田小学校	教諭	星屋 真澄
9	焼津市立大井川保育園	園長	鈴木 さなえ
10	静東教育事務所地域支援課	参事	羽田 稔彦
11	静西教育事務所地域支援課	教育主査	道越 洋美
12	総合教育センター総合支援部小中学校支援課	課長	渡邊 衛
13	義務教育課 指導班	教育主査	瀬戸 武生

事務局(静岡県教育委員会)

平成30年度

1	幼児教育推進室 室長	宮澤 礼子
2	班長	岩田 雅彦
3	教育主幹	嶋田 成幸
4	教育主任	鈴木 正義
5	幼児教育専門員	岡本 淳子
6	幼児教育専門員	寺尾 治代

平成29年度

1	幼児教育推進室 室長	藤本 眞二
2	班長	岩田 雅彦
3	教育主幹	福井 孝子
4	教育主任	宮村 典雄
5	幼児教育専門員	岡本 淳子
6	幼児教育専門員	寺尾 治代
7	賀茂地域幼児教育アドバイザー	土屋 幸子
8	義務教育課 主査	大石 智子



静岡県幼児教育推進マスコットキャラクター  
『わっ!ぴょん』

静岡県版幼小接続モデルカリキュラム  
「じぶんでできた!いっしょにやろう!」

平成30年12月発行  
静岡県教育委員会